

題目	総計
	合

※ 問題用紙は (その一) から (その五) までありますから、注意してください。  
 ※ 答えは、別紙の解答らんじんに書き入れなさい。

1 次の各問に答えなさい。

- 1 マラソン大会でカシノウする。
- 3 ノウフが田畑で働く。
- 5 だれにでもケツテンはある。
- 7 トウガイの明かりが見える。
- 9 ヒツジになって勉強する。
- 2 遠足の日程はミチイだ。
- 4 ミソゾク音楽を歌う。
- 6 シツレインな言動に気をつける。
- 8 ミズベにさく花を見る。
- 10 全校ジドウが校庭に集まる。

2 次の各問に答えなさい。

問一 次の各組の言葉の中には、一つだけかなづかいのまちがっているものがあります。それぞれ一つづつ選び、記号で答えなさい。

- 1 ア こどもづれ (子ども連れ)      ウ ふろしきづつみ (風呂敷包み)
- 2 ア おおぢしん (大地震)      ウ ばかぢから (馬鹿力)
- 3 ア ちぢれげ (縮れ毛)      ウ ちぢかぢか (近々)
- 4 ウ はらつづみ (腹鼓)      エ つづりかた (綴り方)

問二 次の各組の言葉のうち、送りがなが正しくつけられているものを一つづつ選び、記号で答えなさい。

- 1 ア 温かい      ウ 温たかい
- 2 ア 用いる      ウ 用ちいる
- 3 ア 細かい      ウ 細まかい
- 4 ア 聞える      ウ 聞こえる

問三 次の線の言葉を国語辞典で調べると、どんなかたちで引いたらよいか。ひらがなで答えなさい。

- 1 次郎はばずんだ声で答えた。
- 2 自分にはなにもできないのがくやしくてたまらなかつた。
- 3 坂道にさしかかったトロッコは静かに走るのをやめた。
- 4 さわやかな秋風がほおにこちよかつた。

3 39

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしたちにとって身近なウナギですが、その数は昔に比べると大幅に減っています。①これは、東アジアにあるニホンウナギだけの話ではありません。ヨーロッパウナギやアメリカウナギ、ニョージーランドオオウナギなど、世界のウナギも減っています。理由はいろいろあげられていますが、まず一番の原因は、人がとりすぎ、食べすぎたためです。

今、わたしたち日本人は、ウナギが絶滅の恐れのある野生生物であることを忘れたように、たくさんとりすぎ、食べすぎています。ひどく世界のウナギの消費量の七十パーセントを、日本人が食べていると聞いたら驚くでしょう。でも②これは事実。

日本で食べられているウナギの九十九・五パーセントは、※養殖したウナギであることも意外と知られていません。天然のウナギはごくごく一部です。

しかし、まちがってはいけません。この大量に食べられている養殖ウナギは、卵から人の手で育てたものではありません。天然のシラスを河口でとってきて、それにえさをやって大きくしたものです。養殖だからといって、いくらでもつくれるわけではないのです。③Aのシラスがたくさんとれるか、とれないかで、どれくらいBできるかが決まります。

逆に計算してみると、今のウナギCに必要なDシラスの数は、大体一億ひきくらいではないかといわれています。

【最近、実験室で卵から育てた人工のシラスをつくることができるようになりましたが、年間でも何千びきほどをつくるのがやっとで、とても今の養殖に必要な億単位のシラスをつくることはできません。

今後いくら技術が進化しても、一億ひきすべてを人工のシラスでまかなうことは、難しいと思います。す。わたしたちは天然のシラスを、節度をもってとらなくてはなりません。数が大幅に減ってしまった野生生物を利用して、大切にウナギを食べることが必要なのです。】

また、養殖ウナギに比べると消費量はわずかですが、天然ウナギの保護にも心を配らなくてはなりません。この天然ウナギは※マリアナに帰って産卵し、次の世代のシラスをうむ大切な親ウナギになります。④一びきでも多く、親ウナギを産卵場に返してやるのが重要です。⑤川や湖にいる天然のウナギをとることは、ひかえなくてはなりません。

ウナギが減ったのは、河川環境が悪くなったことも理由としてあげられます。汚染物質が川に流れこ

んで、水の質が悪くなりました。河川工事が行われて、ウナギのすみかも減りました。アウナギのえさになるエビやカニ、小魚もすみにくくなり、数が減りました。イ

また、ダムが河川を区切ってしまい、ウナギが自由にいき来できなくなっていました。ウ水力発電のタービンに巻きこまれてずたずたにからだが切られてしまいうナギもいます。正

ウナギがすみやすい川を取りもどす努力をしたいと思います。一人一人の力は小さくても、みんなが力を合わせれば大きな運動になります。ウナギに限らず、川の生き物全体がよみがえる環境にしながらいけません。川全体が生き返れば、ウナギにとってもよい環境となり、よい親ウナギがたくさんマリアナの産卵場に帰っていくことになるのです。

※養殖：魚・貝・海藻などを池などの施設で人工的にやし育てること。  
※マリアナ：マリアナ諸島。西太平洋、小笠原諸島の南方にある諸島。サイパンやグアムなど一五の島から成る。

問一 ① 線「これ」について、次の問いに答えなさい。  
一 「これ」とはどんなことをさしていますか。「こと」にながらるように、本文のことはをつかって二十字以内で答えなさい。  
二十字以内

2 1で答えたことの原因として本文であげられているものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア ウナギを養殖するための人工シラスがふえすぎたため。
- イ ギムや汚染でウナギの住む川の環境が悪くなったため。
- ウ 人がびとがウナギをあまり食べなくなってきたため。
- エ 人が食べるためにウナギを取りすぎってしまったため。
- オ 日本以外の国でもウナギを食べるようになったため。

問二 ④ — 線②「これ」のさす内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ウナギの世界の消費量のうち、七十パーセントは日本人が食べていたということ。
- イ とりすぎたことが原因で、世界中の多くの野生生物に絶滅の恐れがあるということ。
- ウ 日本だけでなく、世界中のウナギの数が減っている理由にはいろいろあるということ。
- エ 日本で食べられているウナギの九十パーセント以上は養殖されたものであるということ。

問三 ④ — A ① D ② には「天然」または「養殖」が入ります。「天然」が入る場合はア、「養殖」が入る場合はイとして、記号で答えなさい。

問四 ④ \* (19行め・23行め)には同じことばが入ります。あてはまることばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア そうして イ ですから ウ さらに エ たとえば

問五 ④ — 線③「川や湖にいる天然のウナギをとることは、ひかえなくてはなりません」について、次の問いに答えなさい。

- 1 その理由を次のようにまとめたとき、空らんにあてはまることばを指定された字数で文章中からさがし、ぬき出して答えなさい。

・養殖ウナギにもなる【I 三字】の大切な【II 四字】になるから。

- 2 「このことは、ひかえなくてはなりません」とほぼ同じ意味を表す十七字のことばを【 】(16～20行め)からさがし、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

問六 ④ 次の文は文章中からぬき出したものです。どこからぬき出したものですか。文章中の【ア】から最も適切な場所を選び、記号で答えなさい。

海と川を移動しなくてはならない、回遊魚のウナギは困ります。

4 ④

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。①～⑥は形式段落の番号を示します。

① ※ホバリングしているルリボシヤンを見ていると、軍用のヘリコプターを思い出す。急旋回、急降下、急上昇、空中停止、そのどれをとっても軍用ヘリコプター顔負けの小気味よい動きをする。ル

リボシヤンでは体長が10センチメートルほどもある大型のヤンだ。けれどヘリコプターは小さくて10メートルぐらいはあるから100分の1の大きさしかないことになる。ヤンのスピードは時速50キロメートル近くは出るそうだが、ヘリコプターは一番速いものでも時速500キロメートルは出ないらしい。もしトンボがヘリコプターぐらい大きかったら時速5000キロメートルというんでもない速度で飛んでいることになるのだ。

② もっともトンボの体の構造からして①そんなに大きくなることはできない。それでも体の大きさに

対してミツバチなど比べると格段に軽いトンボは、昆虫の中では比較的大きくなれる仲間のような。

今までに出現した最大の昆虫もメガネウラと呼ばれるトンボの仲間だ。翅を広げた大きさが70センチ

メートル以上の昆虫が、地球の歴史上にも存在しないことは、それ以上大きくなれば、体にかかる力

も大きくなって、大気の中で素早い動きをしたら翅がねじ切れてしまうからだろう。トンボの飛翔を

高速でビデオで撮影してみると、身を翻す直前には頭が方向転換する方に傾けられているのがわかる。

トンボはその大きな目で常に周囲に気を配っているのである。※トリトリを張っているトンボの目

には空中を移動している他のトンボはどう映っているのだろうか。

③ 最近、ドローンを購入した。実はパトロール飛行をしているオニヤンマに、ドローンをみせてみよ

うと思ったのだ。オニヤンマは細い流れに沿って、パトロール飛行し、メスを探す。パトロール飛行

しているオニヤンマに扇風機を見せると、やってきて、その前でホバリングをする。メスが産卵に来

た時にホバリングする様子に似ているらしい。

④ ②「ドローンを飛ばしてみると結構性能が良い。大きさは40センチメートル四方ぐらいである。長さ

はオニヤンマの4倍しかない。最高速度は70キロメートルと言われるからヤンマよりちよつと速い。

体長で考えても、ヤンマの3分の1ぐらいのスピードが出る。空中でのホバリング性能はヤンマと同

等。急旋回はヤンマの方が優れているが、センサリを備えていて、前方の障害物を感知すると、その

手前でストップし、ホバリングに移る。A、木の細い枝などは感知できないように、ぶつかつた

りする。驚いたのは枝にぶつかつても墜落しないことだ。すぐに体勢を整えて飛び続ける。前方の物体

を捕捉し、追尾する機能もある。ヤンマほどの性能はないが、だいたいトンボに近づいたように思った。

ひと昔前では考えられなかったようなおもちゃの登場だ。

⑤ ホバリングさせて、オニヤンマの反応を見たりオニヤンマと同じぐらいのスピードで飛ばし、パト

ロールしているオニヤンマがメスと勘違いしないかなどを確かめたりしてみたのだが、そこまで上

手に操縦できるようにするのは難しいかもしれない。

⑥ 枝先にとまって近くを通る餌の昆虫を捕らえるジオカトラトンボやアカトンボは、餌を見つけるとさ

つと飛び上がり、また元の場所に戻って食べる習性がある。見ていると、1メートルぐらい飛び上が

り、身を翻して戻ってくる。空中で身を翻すことを「B」というが、これは餌を捕るトンボの飛

び方を突によく言い表した言葉だと思ふ。③「トンボの行動は見ていて、とてもわかりやすい。それは

トンボが昆虫の中では視力に優れ、私たちと共通する世界認識を持っているからかもしれないと思ふ。

(海野和男「虫の目になってみた」〈河出書房新社〉より)

※ホバリング：ヘリコプターやハチドリなどが、空中で停止飛行すること。

※トリトリ：動物などのなわばり。

問一 ◆ 線①「そんなに大きくなることはできない」について、次の問いに答えなさい。

1 「そんなに」とはどのくらいの大きさのことですか。次の空らんにあてはまるように、六字のことは

を文章中からさがし、ぬき出して答えなさい。

・ 六字  くらい大きい。

2 「そんなに大きくなることはできない」のはどうしてですか。その理由を次の空らんにあてはまるよ

うに文章中から三十八字でさがし、はじめとおわりの四字をぬき出して答えなさい。

・ 三十八字  から。

問二 ◆ 線②「ドローンを飛ばしてみると結構性能が良い」とありますが、性能の良いドローンのこと

を、別のことばで言いかえたものと同じ段落から二十一字でさがし、はじめの四字をぬき出して答え

なさい。

問三 ◆ A  にあてはまることばとして最も適切なものを次から選り、記号で答えなさい。

A だから イ つまり ウ として エ けれど

問四 ◆  B にあてはまることばとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア とんぼのなみだ イ しりきるとんぼ
- ウ とんぼ返り エ とんぼの知らせ

問五 ◆ ③「トンボの行動は見ていて、とてもわかりやすい」とありますが、筆者はどのように述べているのですか。理由になる部分を文章中から三十六字でさがし、はじめとおわりの四字をぬき出して答えなさい。

問六 ◆ 次の1～4の内容がわかる段落を一つずつ選び、それぞれ段落番号で答えなさい。

- 1 ドロインにはどのような性能があるか。
- 2 ルリボシヤシマの飛ぶスピードはどれだけ速いか。
- 3 地球の歴史上もっとも大きい昆虫。
- 4 トンボが餌を捕るとき習性。